特114
588

古志郡八町潟治水沿革史

始

特114
688

古志郡八町潟治水沿革史

一、區域

通稱八町潟ト稱スル、省線鐵道城岡驛ヨリ押切驛ニ至ルノ間、鐵路ヲ挾ミテ東西ニ連亘セル大團地ニシテ、其ノ地籍ハ富曾龜、山本、新組、黒條各村ノ大部分ト花谷村ノ一部ニ跨ガリ、耕地面積大凡二千町歩ヲ占ム、舊藩時代所謂八町水腐組ニ屬セシ部落名左ノ如シ。

富曾龜村　富島、龜貝、永田、新保、稻葉

山本村　浦瀨、水穴、加津保澤、桂澤

新組村　福島、田尻新田、中村古新田、漆山、四ッ屋、百束、福井、大黒新田、市郎右衛門新田、彌次右衛門新田

大正14.10.24
内交

黒條村　福田、十二潟、下條西組、東組、高見
北谷村　耳取

二、管轄沿革及水利關係

栖吉村地内ヨリ流下スル成願寺川ノ流末並山本、北谷方面山間ノ溪流ト高地田面ノ餘水トハ相集リテ一綫ノ河流ヲ成シ、八町潟唯一ノ排水幹線トシテ其ノ中心ヲ貫流セリ而モ關係耕地ハ地盤一体ニ低窪ニシテ、黒條村地先信濃川平水面ヨリモ低キヲ以テ本川水面ハ勾配ヲ有セズ、一朝出水ニ際セバ忽チ信濃川ヨリ逆流スルヲ常トス。

是レ乃チ猿橋川ニシテ本川ハ猿橋以下ニ於テハ兩郡ノ境界ヲ劃シ、郡界橋以下ニ於テハ全ク南蒲原郡内ヲ流ル、而シテ舊幕時代ニ於テハ其ノ河身ガ流末ハ新發田舊領ニ屬スルノ故ヲ以テ、獨リ長岡藩ノ意見ノミヲ以テシテハ八町潟根本治水ノ處置ヲ執リ難キ關係ニ在リタルガ爲メ、新組村大字福島地内ニ藩營ヲ以テ逆流留閘門ヲ設ケ、以テ

信濃川ノ逆水ヲ防止シ耕地冠水ノ害ヲ免レムトセリ、而モ今ヨリ百六十六年前寶暦九年十二月ノ調査ナルモノニ依レバ、寶延二年ヨリ寶暦八年迄十ヶ年間平均組内各部落ノ収穫皆無高左ノ如シ、以テ當時ノ被害狀況ヲ知ルベシ。

富曾亀村	富島	一八六石四〇〇
	亀貝	二五、七六〇
	永田	五、三一〇
	新保	一、〇〇〇
	稻葉	二四、四〇〇
黒條村	福田	六、三八〇
	十二潟	七、一八〇
	下條西組	一九、五一三
	高見東組	七五、三二〇
新組村	福島	二三三、六七〇
	尻田	七一、〇五〇
	中村	一九、四五〇
	漆古	六、九一〇
	四ッ屋新田山	五六、一四〇
山本村	浦瀬	二九九石五四〇
	水穴	一〇、一八〇
	加津保澤	三八、八四〇
	桂澤	二六七、六〇〇
北谷村耳取		一六、五〇〇

百福	一三〇、六七〇
大黒	八〇〇、〇〇〇
市郎右衛門新田	三一、一四〇〇〇
東井	二八、五三〇〇
彌次右衛門新田	六、六五〇〇

然ルニ明治戊辰ノ歳出水ノ爲同閘門ハ破壞セラレタルモ、兵馬控偬ニ次ギ制度ノ變革ニ際會シテ亦之ヲ顧ミルモノナク、濁流ハ獨リ其ノ氾濫漲溢ヲ恣ニシ耕地ハ空シク魚鼈ノ棲息ニ委シ秋収纔ニ五年若クハ三年ニ一回ト云フガ如キ慘狀ヲ呈セリ、部民之ニ堪ヘズシテ所在ニ地圍築堤ノ競爭ヲ誘致シタルモ、元ヨリ一時瀰縫ノ姑息策ニ過ギザリシガ爲、結局自他ノ損害ヲ加重セシムルノ結果ニ終ルヲ悟リ年所ヲ閱シ機運ノ進展ニ伴ヒ次第ニ階梯的手段ヲ辿リ漸ク今日半バ根本的治水策ノ一段落ヲ告グルニ至レリ

三、事業ノ計畫遂行並其ノ變遷推移

維新ノ混亂ニ際會シテ水門ハ破壞ノ儘惡水ノ漲溢ニ苦シミタル部民ハ互ニ獨自一個ヲ全ウセムトシテ、互ニ無願地圍堤ヲ築造シ遊水區域縮少ノ爲豬水ノ深度ヲ增スノ結果、次第ニ堤防ノ高サヲ競フテ止マズ、堤内ノ潴水亦吐塲ヲ失ヒ延テ部内ノ紛擾續出シテ年々之ヲ繰返ヘスニ及ヒ時ノ郡長三島億二郎深ク之ヲ憂ヒ、明治十五、六年ノ交部内ノ長老四名ヲ選ビ之ニ其ノ調停裁決ヲ委ネタリ、所謂八町事件立入人ナルモノ是レナリ、四氏ハ具サニ協議ヲ遂ゲ又其ノ根本ノ策ヲモ按シ、一面各堤防ノ高度ヲ實測シテ之ヲ一定セムトシテ、先ヅ其ノ最高ナルモノニ一部之ガ删去ヲ命ジタルモ應ゼズ結局代執行ニ臨ミ、紛議其ノ極ニ達シ遂ニ反對ノ暴舉ヲ見ムトシテ止ミタリ。

斯ル情勢ハ爾來繼續シテ頻ニ蝸牛角上ノ爭ヲ繰リ返シ年々止ム處ナカリシガ、偶々明治二十三年水利組合條例ノ布カルヽニ及ビ、部内ノ各部落ハ豫テ築造ノ圍堤ヲ保護シ水防ノ目的ヲ達スルヲ名トシテ、相踵テ水害豫防組合ヲ組織シ其數實ニ五個ヲ算スルニ至レリ。

然レドモ之レ唯從來任意無手續ノ營造物ニ對シ公認ヲ得タルニ止マリ、何等根本ノ解

決策ニ觸ル、處ナカリシガ爲、鄉民ノ苦痛ハ毫モ救ハル、處ナク部内ノ紛爭從テ根絶スルニ至ラズ、先覺識者此間ニ在リテ切ニ大同團結シテ根本救治ノ緊急ナルヲ察シ、或ハ當路ノ有司ニ說キ或ハ專門技術者ニ策ヲ需メテ、只管機運ノ促進ニ努メタリ。

明治四十四年ニ至リ遂ニ五ケノ水利組合ハ共同事業遂行ノ目的ヲ以テ、其ノ聯合ヲ策シテ之ガ認可ヲ得、先ヅ大体舊幕時代ノ逆水留大閘門ヲ復舊スルノ案ヲ求メタルモ、元ヨリ今日ノ見地ヲ以テシテハ姑息不撤底ノ譏ヲ免レザリシガ爲、之ガ發表ヲ見ズシテ止ミタリ。

大正元年ニ至リ茲ニ改メテ渾然タル一大水害豫防組合ヲ組織セムコトヲ策シ、其ノ受水區域ヲ確定シ併セテ受益ノ厚薄ヲ推定スルノ必要ヨリ、地區内地盤ノコントルヲ測量シテ之ニ備ヘ、愈々同二年十二月ニ至リ區域指定ノ指令アリ、組合組織賛否ノ論遽ニ喧シク越エテ、大正三年二月ニ於ケル總代人ノ選擧ニハ極度ノ緊張ト空前ノ競爭トヲ惹起シタルモ、同年六月ニ至リ組合規約ノ許可ヲ得テ、愈々新組合ノ成立ヲ見ルニ至レリ、一面事業ノ計畫ハ長呂地先、信濃川舊堤跡ヲ利用シ二千〇三十間ノ瀨割堤ヲ築キテ猿橋川ノ流末ヲ與板橋ニ導キ、此間ノ落差四尺七寸三分ヲ得以テ滿水ノ排除ヲ促進シ、逆流ノ溯入ヲ防止スルコトヽシタリ、但シ其爲南蒲原郡中之島村ノ灌漑水利ヲ害スルヲ以テ、新ニ黑條村大字天神地先ヨリ猿橋川ニ向テ九百二十間ノ新水路ヲ堀鑿シテ四十四個ノ水量ヲ補給シ、長呂地内中條樋管下内川ニ自在堰ヲ設ケテ其ノ調節ヲ圖ルコトヽセリ。

然ルニ組合内部ニ於テハ黑條村ハ區域内治水ノ一端トシテ、組合ノ計畫ト前後シ而モ其ノ力ニ賴ラズ村營ヲ以テ栖吉川ノ改修ヲ遂ゲタルノ故ヲ以テ、一部區域ノ脫退又ハ組合費ノ免除若クハ輕減ヲ要求シ、之ガ緩和ヲ圖ラムトスレバ他面異議者ノ鎭定ニ苦ミ幾多ノ波瀾曲折ヲ經タリ、又其ノ設計ニ就テハ南蒲原郡中之島村ノ同意ヲ得ルニ苦シミ是又慘憺タル經路ヲ辿レリ。

其他起債ノ許可受ニ用地ノ買收ニ相當難局ニ處シテ、漸ク大正五年五月請負ニ付シタ

ルガ恙虫發生地ニシテ、川表ノ水中ノ工事ノコトヽテ幾多ノ犧牲ヲ拂ヒ、大正七年八月漸ク其ノ工ヲ竣レリ、此ノ年四月例年渦水漫々タリシ組合耕地モ始メテ黒土ヲ見、開闢以來始メテ世間ナミニ苗代整地ヲ爲スヲ得タリトテ部民ノ面上喜色溢ル。

工事終了後ノ實驗ニ徵スルニ天神新水路ハ土質粗惡ニシテ、塗湧崩壞其ノ用ニ堪ヘザルモノアルガ爲、全線ヲ通ジセメント張トナスベク議ヲ凝セリ。

偶々組合内大半ノ耕地灌漑用水路タル福島江ハ、其ノ取入口タル古志郡六日市村三俵野地先ニ於テ水防ノ爲、先年縣營ヲ以テ川倉枠ヲ築造シタル結果、水勢ノ變動ヲ來シタルニ近年更ニ之ガ修理ヲ加ヘタル爲、一層用水ノ取入ニ困難ヲ招ケルヲ以テ、何等カ救濟ノ策ヲ講ゼラレタキ旨縣ニ愬フル處アリ、猿橋川組合ハ此ノ好機ニ乘ジ之ヲ兼用シテ多分ノ用水ヲ取入レ以テ天神用水ノ代用トシテ、中之島村ニ對スル義務ヲ果タサムトシ中之島村ハ之ヲ聞知シテ加入シ、更ニ大堰組合、刈谷田川用水ノ補給タラシメムトシ、又福島江ト取入口ヲ共ニシ又ハ其ノ直近上流ニ取入口ヲ有スル五ケ江モ共同參加シテ新ニ取入口ヲ川倉ノ枠ノ上流ニ移シテ、其ノ規模ヲ擴張シ福島江ノ全線ニ改良ヲ施シ、中途富島江ノ支線ヲ新設シテ之ニ用水ヲ分讓シ、彼是共同ノ目的ヲ達セムコトヲ期シタリ。

更ニ猿橋川ノ上流ニ於テハ大正四、五年來頻リニ耕地整理ヲ奬勵シテ、其ノ殘水ヲ一氣ニ猿橋川ニ洹瀉スルノ設計ヲ立テタルガ爲、一旦施行シタル流末延長工事ノ計畫ニ齟齬ヲ來シ其ノ効果ノ幾分ヲ減殺セラルヽコトヽナリシヲ以テ、大正五年中縣下四十七河川、十ケ年繼續改修豫定案ノ編制セラルヽヤ、猿橋川ノ上流ヲモ之ニ編入ヲ求メ置キタルガ爲、新ニ又幾多ノ經緯紛爭ヲ經テ其ノ地元負擔ニ任ズル主体、乃チ北組水害豫防組合ヲ起シテ、大正九年十二月縣營ヲ以テ改修工事ノ着手ヲ求メタリ、乃チ曩ニ組合ニ於テ施行シタル流末延長工事モ本件改修工事モ南蒲原ニ對スル用水補給工事モ共ニ夫々因果關係ヲ有シ一体不可分ナルガ爲、福島江改良工事ハ猿橋川改修工事ノ付帶事業トシテ縣ニ其ノ施行ヲ求メ、並猿橋川水害豫防組合ガ用水補給義務ヲ果スガ爲

ニ求ムル部分ノ工事費ニ對シテハ縣ヨリ規定ノ補助ヲ仰グコトヽシタリ。斯ノ如クニシテ浩瀚ナル設計ノ成立ト複雜ナル負擔歩合ノ協定トニ多大ノ苦慮ヲ拂ヒ、猿橋川水害豫防組合全工事ノ事業主体トナリ、大正十年七月工ヲ起シ晝夜兼行其ノ工程ヲ進メ翌十一年五月十五日新規取入口ノ假通水ヲナシ、十二年十一月十六日全線ノ通水試驗ヲ施行シタリ、爾來各所ノ補强工事又ハ一部殘工事ノ仕上ゲニ從ヒ以テ今日ニ及ベルモノトス。今尚未了ニ屬スルハ鐵道省關係鐵橋延長並ニ鐵橋下取擴ゲ工事四ケ所ナリトス。

四、事業遂行上ノ關係者

凡ソ事ノ成ルヤ成ルノ日ニ成ルニ非ズシテ必ズヤ由來スル處アリ。八町潟治水ノ事タル其ノ水門ハ元藩廳ノ經營ニ屬シ、其後廢藩置縣ノ事アリト雖モ初代、二代ノ郡宰共幸ニ長岡藩士ナリシガ爲、能ク土地ノ事情ニ通ジ鄉内有志ト舊識タルノ故ヲ以テ、先ヅ其ノ間ニ於テ善處シタリト謂フベシ、彼ノ三島郡長ガ事件立入人トシテ富曾龜村安井善三郎、新組村風間富太郎、山本村鈴木調叟、新組村安藤五八郎四氏ヲ選任シタルガ如キハ機宜ノ處置ナリト謂フヲ得ベシ。

水利組合ガ恰カモ雨後ノ筍ノ如クニ駢立シテ互ニ排他的築堤ヲ競フニ至リシハ、明治三十年前後ニシテ恰モ郡長阿部致ノ時代ニ屬ス。之ヲ打ッテ一丸トシテ根本排水ノ策ヲ樹テ、姑息ノ競爭ヨリ擺脫セシムベキコトノ急務ナルニ着目シテ、之ヲ阿部郡長ニ進言シタルハ實ニ前記調叟ノ嗣子鈴木義延ナリトス。又同人ハ後ノ新潟縣土木技師ニシテ當時新潟ニ測地舍ヲ經營セル青木亮三郎ニ就キ親シク根本治水策ヲ討ネ、乃チ今日其ノ實施ヲ見タル猿橋川流末延長並、別途用水補給策ヲ得、先輩井上戸久治ニ諮リ之ヲ大河津分水工事ノ附帶事業トシテ、施行セラレムコトヲ關係村長ト連署シ内務大臣ニ請願セムトシタルモ亦、實ニ當時ノ事ニ屬シ爾來志ヲ渝エス聯合ニ尋ギ新組合ノ成ルニ及ビ常ニ常設委員タリ。安藤五八郎亦大正六年二月病歿迄本事業ニ干與セル一

人ナリトス。尙常設委員トシテ井上戸久治、故岩淵敬一郎、鳥羽杢二郎諸氏克ク一貫其ノ職ニ盡シ斯業ノ大成ニ務メラル。更ニ安藤楯次郎、若月八郎治兩氏モ等シク委員トシテ後年大ニ組合ノ樞機ニ參與セリ。

五ケ組合聯合組織ノ成リシハ郡長齋藤文吾ノ晩年ニシテ、金山文藏之ガ補佐役タリ。新規組合ヲ組織シ根本事業ノ方針ヲ立テタルハ郡長五十嵐佐清ノ時代ニシテ、補佐職ニ池文一就職シ爾來郡長稻田甫吉、同片山三男三ハ其ノ執行時代ニシテ、又福島江改良工事ヲ代用シテ用水上ノ義務ヲ盡クサンコトヲ計畫シ、又猿橋川上流改修ノ爲新ニ北組水害豫防組合ヲ起シタルモ共ニ片山郡長ノ時代ナリ。郡書記池文一ハ更ニ此等計畫ノ實施期タル郡長今井龜三郎ヲ經テ同渡邊喜一ノ時代ニ入リ縣ニ轉ゼリ。

縣知事トシテ流末工事ノ補助發案ヲナセルハ坂仲輔ニシテ、土木課長ハ奥山龜三ナリ猿橋川上流改修ヲ繼續事業年次ニ編入セルハ知事北川信從ナリ。之ガ實施並附帶工事トシテ福島江改良工事ヲ認メ其ノ補助金ヲ發案セルハ知事太田政弘ニシテ土木課長ハ松浦圓四郎ナリトス。又流末工事ノ設計者ハ前示青木亮三郎ニシテ、福島江改良工事設計者ハ技師丸山悅三ナリ。是等諸士ノ勞ハ本工事ノ成功ノ記念トシテ、永遠ニ沒スベカラサルモノナリトス。

296
393

大正十四年十月十五日印刷
大正十四年十月十八日發行

〔非賣品〕

編輯兼發行者　長岡市東弓町五五一番地　小熊謹次郎

印刷人　新潟縣長岡市表町三丁目　岩瀬直藏

印刷所　新潟縣長岡市坂之上町二丁目　株式會社北越新報社

發行所　新潟縣長岡市觀光院町　猿橋川水害豫防組合

終